

2019年1月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

1月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、18日(金)、NHK放送センターにおいて、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前橋放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、ぐんまスペシャル「そうだ、湯治に行こう 極上！温泉王国ぐんま」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、2月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
副委員長	奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
委員	岩佐 十良 ((株)自遊人代表取締役)
	斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
	杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
	杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
	野老真理子 (大里綜合管理(株)代表取締役)
	仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
	宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<ぐんまスペシャル「そうだ、湯治に行こう 極上！温泉王国ぐんま」

(総合 6月29日(土)放送) について>

- 番組を見て、群馬県には一軒宿の温泉がたくさんあることを初めて知った。沢渡温泉の「一浴玉の肌」というキャッチフレーズは温泉の魅力をひと言で表しており素晴らしいと感じた。温泉、食事、アクティビティを組み合わせた1泊2日の「ごほうび湯治」が四万温泉全体を活性化していると感じるとともに、番組で紹介されたおかみの田村早代さんが周囲を巻き込んで開発した、ヘルシーで豪華な湯治懐石のエピソードから、物事をやるには1人の熱い思いがないとできないのではないかと思った。今回は四万温泉だったが、ほかの温泉地についても取り上げてほしい

い。なお、四万温泉の「ごほうび湯治」に2人の女性が子どもを連れて参加していたが、母親がヨガをやっているときに子どもをどこに預けたのかが気になった。子どもを持つ若い母親が知りたい情報をもう少し丁寧に紹介すればよりよかったと思う。

(NHK側)

「ごほうび湯治」のヨガは母親の近くに赤ちゃんがいる形でやっていたと聞いている。今後、同じような取り組みを番組で紹介する際は、母親たちが安心して参加できるように配慮していきたい。

- 四万温泉を初めて知ったが、1泊2日でこのようなよい企画をやっているのだと番組を通して知ることができた。夕方の4時から夜、そして翌朝にかけてを軸に、少し足を延ばしたところまで紹介されている構成も見やすかった。ヨガのあとに入浴すると、相乗効果でよりリラックスできるというのは女性にとっては興味深い情報で、これだけでも行ってみたいとなった。最も興味を持ったのが沢渡温泉の共同浴場のところで、地元の人と観光客が温泉に入りながら会話をしたり、気に入って遠方から何回も来られる方がいるところがよかった。一点、入場料は毎日入る地元の人も同じなのかが気になった。また、少し音楽が過剰だったのではないかと思った。テロップも多く画面がにぎやかで、一見すると見やすく長さを感じずに見られるのだが、せつかくすばらしい自然の中で滝の音が背景にあるのに、音楽が流れ続けていて滝の音がよく聞こえない場面があった。また地元の人インタビューのシーンでも音楽が流れ続けていた。音楽を使うのであれば、ところどころでは逆になくしたほうが、互いに生かしあえるのではないか。

(NHK側)

BGMについては、より若い人に温泉を親しみやすく見てほしいという思いもあり、今回のような形になった。意見は今後の番組制作に生かしたい。

- 群馬県にはさまざまな温泉があることが伝わったが、四万温泉の「ごほうび湯治」が軸になるはずが、ところどころで他の温泉の話題も紹介されたことで散漫な印象を受けた。また毎回テロップを入れるのではなく、メインのところだけに入れたほうがかえって伝わりやすいのではないか。女性をターゲットにした四万温泉のおかみたちの取り組みは実にすばらしかった。ただ、ヨガの間のお子さんのケアについてや、女性がアクセサリをしたまま入浴されていたところはちょっと気になった。

全体として歴史の深みも感じさせるよい内容で、新たにこの地域に関心を持って実際に足を運ぶ人も増えるのではないか。

- 「そうだ、湯治へ行こう」というタイトルから鉄道会社のCMを連想したが、番組を見るとひと工夫があつてよかった。入浴法、効能などの温泉についての深掘りもあり、群馬県民に親しまれている上毛かるたを挿入するなど、群馬ならではの番組づくりだったと思う。温泉の情報はもとより、旅館や共同浴場も紹介されており、「プロジェクトX」のような演出も楽しめた。グルメ、アクティビティーもあり、よくある温泉番組に比べて変化があつたと思うので、ほかの温泉地もこの手法で取り上げられるのではないかと期待している。番組は群馬県域放送で、再放送もあつたそうだが、関東広域で放送してもよかったと思われる。

(NHK側)

この番組は「首都圏情報 ネットドリ！」というタイトルで東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県内向けに同じ日の午後7時30分から放送したほか、翌日の午前10時55分からは栃木県、茨木県も含む1都6県で放送した。

- 全体的にテンポよくいろいろな温泉が紹介されていて楽しく視聴したが、いくつか気になった点がある。四万温泉の「ごほうび湯治」をベースに番組を構成したと思うが、「ごほうび湯治」の部分がとても多く、もう少し現代の新しい湯治事情の部分を紹介した方がよかったのではないか。また、素朴な疑問として、ほかにも有名な温泉地がある中で、なぜ今回の温泉が選ばれたのか気になった。さらに、一軒宿の温泉が源泉を守っていることを説明するフリップのところで、「首都圏温泉」という表記はやや意味が分かりにくかった。番組では一軒宿の温泉だけが源泉を守っているように見えたが、実際には分湯などさまざまな守り方があるはずなので、紹介の仕方に工夫がほしかった。
- 今回の番組を見て、今まで行ったところは限られた数か所でしかないことが分かって楽しみが増えた。四万温泉のヨガ、ノルディックウォーキング、健康によい食事などはよく工夫されており、その努力が取り上げられたことはよかったと思う。温泉ライターの小暮淳さんが勧めるぬる湯の川古温泉や共同浴場も行ってみたいと思った。温泉マーク、温泉まんじゅうは群馬が発祥の地であることや上毛かるたなどが丁寧に紹介されており、素直に見ることができた。見るつもりがなかった人が何げなく見ても好感を持てたのではないか。群馬県の人たちが見たときに地元の魅力を再発見できる番組だと思った。

- 番組の中に出てきた御湯畑博士というキャラクターがユニークでおもしろかった。「プロジェクトX」のような開発秘話が盛り込まれたのも効果的だったと思う。中でも料理長が「懐石は手間の仕事」という名言を言っており、よい勉強になった。しかし、「プロジェクトS」のコーナー名の末尾が聞き取れず、文字も読みにくかったのは残念だった。有名な草津温泉、伊香保温泉だけでなく、川古温泉、沢渡温泉なども取り上げていたことに好感を持った。温泉ライターの小暮さんは人柄がよく、自然に必要な情報を紹介しており、適任だと感じた。一方で、番組の焦点がどこにあるのかがよく分からないとも感じた。30分という短い情報番組の場合は、プレゼンテーションの手法が使えるのではないかと思う。例えば「テーマ1. ヘルスツーリズム」「テーマ2. 一軒宿の温泉」「テーマ3. 共同浴場での交流」などのテーマを設けるなど、もう少し工夫があるとなおよかった。
- 温泉という昔ながらのイメージが強い中で、それを払拭(ふっしょく)するような新しい温泉の楽しみ方が紹介されていた。ぐんま大使の井森美幸さんのナレーションはとても自然で落ち着いており、御湯畑博士とのやりとりもよかった。「ごほうび湯治」とはどのようなものなのか関心を持って視聴したが、番組のタッチや出演された方を含めて、女性向けの印象を持った。紹介された温泉は赤ちゃんと一緒に入れることが魅力的だと思う一方で、母親がヨガをしている間に子どもがどうしているのかについても取り上げてもらえれば、なおよかったのではないか。メインの四万温泉の話題が番組を通して続く中に、豆知識として、入浴法や湯治の歴史、上毛かるたの話題などさまざまな情報が盛り込まれており、全体として温泉のイメージを変えていく方向性は分かったが、やや盛り込みすぎた印象を受けた。群馬県内の温泉の約半分が一軒宿の温泉だということや、さまざまな温泉の紹介もあり、最初は女性向けの印象だったが、男性にとっても魅力ある内容になっていたと思った。
- 若い人はなじみがない湯治をテーマにした番組であったが、昔を懐かしく思い出しながら視聴した。30分では難しいかもしれないが、ぐんま大使の井森さんを登場させるのであれば、単なるナレーターではなく、群馬県としてどうやって若い人たちや増加する外国人旅行者を呼び込むのか、といったことを取材して紹介するほうがふさわしかったのではないか。また、「プロジェクトS」のパートについては、インパクトはあったがBGMが気になり内容に集中できなかったのが残念だった。
- 四万温泉には高級なイメージがあったが番組を見て四万温泉がどんなところで、どんな魅力があるのか分かった。四万温泉の新しい湯治を縦糸に、そこでのアク

ティビティー、他の温泉地を横糸にし、組み上げる構成がテンポよい番組となっていた。群馬県は東京都や埼玉県からも近く、そういう場所に温泉王国があることを強くアピールできていた。群馬の温泉地すべてを制覇したという温泉ライターの小暮さんのキャラクターが親しみやすく、心から群馬の温泉を愛してやまない感じが伝わってきた。放送が6月29日(金)ということで、夏休みの計画を立てようと思っている視聴者にも参考になったと思う。冒頭でカヌー、カヤックをこいでいるシーンがあり、番組の中で紹介されるかと思ったが、特に何も触れられなかったことが気になった。四万温泉に「ごほうび湯治」に来た母親たちがヨガをしている間、赤ちゃんをどうしているのか疑問に思ったので、面倒をみてくれる方がいるのかどうか、情報が欲しかった。源泉蒸し風呂のパートで女性がネックレスを着用したままだったのも気になった。ナレーターの方のカラッとしたり明るいキャラクターは好きだが、ナレーションにやや聞き取りにくいところがあったのは残念だった。

<放送番組一般について>

- 12月28日(金)のNHKスペシャル「女7人おひとりさま みんなで一緒に暮らしたら」(総合 後10:00~10:45)を見た。最近シェアハウスなどが話題になっているが、この番組を見て同じマンションにそれぞれ住んで、ときどき会うという形もあるのだと感じさせられた。日本は男女の平均寿命を比較すると女性のほうが長生きなので、大きな家に1人で住むよりは、番組で紹介されたように何かあったときのためにお互いに鍵を渡しているような暮らし方も実験的で興味深かった。
- 1月13日(日)のNHKスペシャル 東京ミラクル 第1集「美食の街 受け継がれる“築地の魂”」を見た。ドキュメンタリーとドラマで、歴史を深掘りしていくという趣旨のシリーズのようだが、その初回ということで興味深く見た。「築地が料理人を作る、育てる」、「利益よりも信頼」、「食べる人の満足を何よりも大切にする」という築地魂の3つの柱が番組を通して貫かれていた。築地が戦争直後から復興していく様子が映像とともに説得力をもって描かれており、NHKならではの番組だった。ナビゲーターの佐藤健さんやドラマパートの“じいちゃん”のキャラクターも分かりやすく安心して見ることができた。当時の貧しい人々や東京の様子をはじめ、外食産業がどのように復興してきたのかが当事者の証言などを通して伝わってきた。まだ移転したばかりなので難しいとは思いますが、2018年10月以降、豊洲に移ってからの内容がややもの足りない印象があった。

(NHK側)

2020年に向け、世界から東京が注目される中で、外国人が東京に驚き、ミラクルだと思ふことを改めて深掘りしてみると日本人にとっても新たな驚き、気づきがあるのではないかとということで「東京ミラクル」というシリーズを立ち上げた。日本には「美食の街」がいくつもあり、築地だけで語れるものではないが、今回は歴史的な背景を含めて築地をひもとく形にした。豊洲に移転したあとはあまり時間がたっていないこともあり、やや物足りなさを感じた方もいたかもしれないが、指摘は今後のシリーズに活かしていきたい。

- 12月30日(日)の運命のクロスヒストリー「徹底捜査 忠臣蔵」(総合 後9:00～9:59)を見た。刑事ドラマのように物的証拠、状況証拠などを積み重ねていく手法はほかの歴史番組と異なり、赤穂側だけでなく吉良側からも描くという演出は、NHKの歴史番組としては新鮮だった。科学的な実験もあって堅苦しい歴史番組にならず、エンターテインメントとしても楽しめたが、こうした手法はBSの歴史番組にもあり、やや既視感もあるので、今後さらに工夫してほしい。
- 運命のクロスヒストリー「徹底捜査 忠臣蔵」を見た。吉良邸の見取り図などから詳しく考察し、赤穂浪士の鎖かたびらなど万全の装束、夜間視界が利かない中、十文字槍を使って、1人に対して3人で前後から攻める戦法が有利だったことなどを紹介しており、大変画期的な内容だった。また吉良側からの視点も、これまでにない分析だったと感じた。ただ時代考証として3つの疑問が感じられた。吉良邸の長屋にいた家臣150人のうち100人は雨戸が開かないようにされ閉じ込められていたそうだが、数時間にわたって本当に出られなかったのか。また討ち入り後、大石内蔵助以下の赤穂浪士たちが自首したときに、大目付・仙石伯耆守がかみしもをつけていたとのことだが、わざわざ自首してきた相手にかみしもをつけていたのか、さらには上野介の息子の吉良左兵衛の取調べの場面で、彼の姿が血のついた寝巻き姿だった。本当にその日に着替える時間もなく取り調べが行われたのだろうか。

(NHK側)

質問については調べて次回お答えする。

- 12月31日(月)の「第69回NHK紅白歌合戦」について、今回は家族全員で最後まで盛り上がり見ることができた。Eテレをはじめ、さまざまな番組のキャラクターが出演するなど、いろいろな世代が楽しめる番組になっていた。歌合戦な

のに、バラエティーの要素が強すぎるのではないかといった意見もあるかもしれないが、年末にいろいろな世代と一緒に見て楽しめる点においては、大きな成果があったのではないか。ただ、司会の4人の役割分担など課題を感じさせる点もあった。

- 「NHK紅白歌合戦」を生放送で見た知人たちが今年の紅白歌合戦は史上最高だったと盛り上がっていた。いきものがかりの『じょいふる』の振り付けがよかった」「椎名林檎と宮本浩次のコラボがよかった」「米津玄師がよかった」など、テレビを見ながら次々と盛り上がっていたようだ。放送から2週間たった今も録画視聴して振り返って一緒に盛り上がっており、幅広い世代がこれだけ盛り上がる番組はほかにないと改めて思わされた。
- 「NHK紅白歌合戦」は、大勢の出演者が舞台裏で見事に入れ代わっていたのだろうと想像しながら見た。ただ、1人の歌手に100人以上のダンサーが出演する演出では、じっくり落ち着いて歌を聴くことができず残念だった。
- 1月12日(土)の土曜ドラマスペシャル「ベトナムのひかり～ボクが無償医療を始めた理由～」(総合 後 9:00～10:13)を見た。月の半分は日本でフリーの眼科医として働き、残りの半分はベトナムで無償医療を行う大阪出身の医師の実話に基づいたドラマだった。昨年、ベトナムとの外交関係樹立45周年を迎え、出入国の管理法も改正されたが、今後増えてくるであろう外国人に対する意識の持ち方について、考えさせられる内容だった。「人は人を助けるようにできている」というセリフが胸に残り、ことばや文化、習慣などの違いを超えて、お互いに助け合うことの大切さが伝わるよい番組だった。
- 土曜ドラマスペシャル「ベトナムのひかり～ボクが無償医療を始めた理由～」は大変勇気をもらえるドラマだった。「人は人を助けるようにできている」ということばや、ベトナムと日本を行き来しながら15年間で1万5,000人を失明から救った眼科医の実話は「連続テレビ小説」にもなりうると思った。主人公がホームレスを支えた父親と同じ道を歩んでいると振り返る映像は涙なしに見ることができなかった。
- SNSなどが発達したことで自分の興味のある情報だけに偏ってしまい、人々が自分と違う意見を受け入れにくくなっていると感じている。そういう中で、テレビには世の中にいろいろな思いの人がいるということを伝える役割があると思う。1月4日(日)の明日へ つなげよう 未来塾「池上彰エネルギー街道をゆく! Fukushimaから考える“ニッポンの未来”」でも、池上さんが6人の大学生た

ちと被災地を訪ねていたが、人々が抱えているさまざまな思いが、現地に行くことで浮かび上がり、現地の人と交流する様がよく描かれていた。一つのテーマについて、政治や福祉、経済、国際関係などいろいろな分野の専門家がそれぞれの立場から意見を出し合い、仮に答えが出なくても、いろいろな考え方があることを伝えられる番組ができないものだろうかと思えて感じた。

(NHK側)

SNSなどで偏った意見が拡散してしまうことを取り上げた番組はこれまでも放送してきた。「明日へ つなげよう」の「復興サポート」というシリーズでは、一つのテーマで専門家たちが語り合うこともある。ご意見は今後の番組制作に生かしていきたい。

- 12月16日(日)の目撃! にっぽん「左手がつむぐ希望のメロディー」を見た。番組では「第1回 ウィトゲンシュタイン記念 左手のピアノコンクール」を取り上げていた。戦争で右手をなくしたような人のための左手のピアノ曲が古くからあることは知っていたが、プロとアマチュアが垣根を越えて集まる類例のないコンクールですばらしかった。次回以降も継続して取り上げてほしいコンクールだと思った。
- 12月25日(火)の「NHKニュース おはよう日本」の特集「師走の風景 横浜 街かどピアノ」ではピアノを弾きに来る人たちが魅力的で見ていてほのぼのとした気持ちにさせられた。
- 12月27日(木)の「ほっとぐんま640」の「万引きをやめられない“窃盗症”治療の現場」では、万引き依存症の治療を推進する、全国でも数少ない病院の取り組みを知ることができた。
- 年末の忙しい生活実態の中で、12月30日(日)の大河ドラマ「西郷どん」総集編 第一章「薩摩」、第二章「再生」、第三章「革命」、第四章「天命」(総合 後 1:05~2:05、2:05~2:55、3:05~4:25、4:25~5:35)を見た。内容は間違いなくおもしろかったが、12月30日の午後帯に長時間テレビ番組を見続けるのは、やや難しいとも感じた。
- 12月31日(月)の「ゆく年くる年」(総合 後 11:45~1月1日(火)前 0:15)を見た。この番組を毎年見ることで心を落ち着かせ、次の年を迎えようと気持ちを切

り替えている。今回は特に草津からの中継を楽しみにしていた。1月に草津白根山が噴火してから草津の人たちは闘いの日々だったと想像するが、いつも頑張っていると思いだった。地元の人たちが光泉寺に参拝する姿を見て、2019年は本当によい年になりますようにと願った。白根山が落ち着いている今、NHKが地元の人たちの声を番組で取り上げれば、「白根山は大丈夫だから草津へ行こう」と考える視聴者が増えて地域の活性化につながるのではないかと思った。

- 1月6日(日)の小さな旅「大地の恵み あるがままに～栃木県 那須町～」では、自分も訪れたことがある鹿の湯のほか、冬でも放牧している乳牛の様子や家族経営している温泉宿が描かれておりよかった。
- 1月18日(金)の「あさいち」に村木厚子さんが出演していた。瀬戸内寂聴さんから、社会を動かす、社会にインパクトを与えるという点ではテレビは大事だと言われて出演を決めたと話していたが、村木さん自身もテレビの影響力を認めた上で、出演したのではないかと思った。
- 12月28日(金)のドキュランドへ ようこそ！「タイタニック 新たな真実」を見た。サブタイトルどおり、タイタニックの沈没の原因となる新たな真実が判明したことに大きな感銘を受けた。タイタニックの研究者が、船体の写真に黒い影が写っていることを発見したことから、タイタニックが1912年にサウザンプトンを出港する前に石炭倉庫から出火しており、これが沈没の大きな原因ではないかと解き明かしていた。タイタニック沈没事故から100年以上がたった今、真相に迫ったすばらしい番組だった。
- 1月1日(火)のEテレ放送開始60年！「Eうた♪ココロの大冒険」(Eテレ 前9:00～10:10)を見た。豪華な俳優と歌手が出演して、特に寺田心くん、清野菜名さんなどが好演していた。Eテレの過去の名曲をただ羅列するということではなく、ドラマ部分もストーリーがよく練られており、歌とドラマが関連付けられているすばらしい番組だった。
- 1月1日(火)の香川照之の昆虫すごいぜ！「お正月スペシャル カマキリ先生☆冬の森で初暴れ」(Eテレ 後6:00～6:44)を見た。香川さんとスタッフが番組を楽しんで作っていることが画面から伝わってきて、視聴者もその雰囲気共有できるすばらしい番組だと感じた。一つの分野に情熱を持った芸能人を番組に起用するのはよいと思う。「香川照之の昆虫すごいぜ！」だけでなく「○○の○○すごいぜ！」のようなフォーマットがあってもよいのではないかと思った。

- 1月1日(火)の先人たちの底力 知恵泉「大新年会“改元”～いろいろあったね！歴代元号～」(Eテレ 後 10:00～10:59)を見た。過去には自然災害が発生すると元号を変えていたことや、「大化」からすべての元号を平均すると4～5年に1回の頻度で元号が変わっていたことなど、長い歴史の中でのことしの改元を位置づけており、興味深かった。ただ、今の3代目の店主と初代の店主とのやりとりは必要だったのか疑問に思った。
- 12月23日(日)の行くぜ！パラリンピック「ブラインドサッカー」(BS1 後 7:00～7:49)を見た。これまで全く知らないスポーツだったが、番組を見てオリンピックだけでなく、パラリンピックにも注目しようと感じた。今後もパラリンピックを継続的に取り上げてほしい。
- 12月30日(日)のBS1スペシャル「ロストフの死闘 日本vs. ベルギー 知られざる物語」(BS1 後 9:00～9:50、10:00～10:49)を見た。たった14秒の出来事を110分かけて描いていたが、長さを全く感じさなかった。14秒の中にあれだけ多くの思惑、行動、反応、駆け引きがあったことに大変驚いた。1秒という単位はあくまでも人間が決めた単位にすぎず、コンマ何秒でいろいろなことが起きているというところを改めて感じられるすばらしい番組だった。
- 1月16日(水)の江戸あばんぎゃるど 第一回「アメリカ人が愛した日本美術」(BSプレミアム 後 9:00～10:29)を見た。最近、海を渡った日本美術を扱った出版物や展覧会が話題になっているが、タイムリーな番組だったと思う。アメリカ人映画監督とNHKが共同で制作したとのことで、日本の番組では全体を撮ってから細部にフォーカスすることが多いのに対して、今回は細部から全体に広げるカメラワークが採用されており、新鮮に感じられた。美術品流出の歴史だけでなく、欧米人が持つ日本美術へのまなざし、どのような美意識を持っていたのかを探った点などがすばらしかった。美術史を語る上で有名なフェノロサ、ビゲロー、岡倉天心などではなく、地質学者のフラワーの話題から番組が始まったのも好感が持てた。第二回「ガラスを脱いだ日本美術」にも期待している。
- ニュース、スポーツ番組などで画面左下にSNSの投稿の表示をすることがある。若者には効果的かもしれないが、目がチカチカして余計な情報と感ずることもあるので、ボタンを押せば消せるような技術があれば開発してほしい。

(NHK側)

技術的には、データ放送の技術で画面にSNS情報を表示すれば、視聴者がオンオフを操作することは可能だと思われる。意見は今後の番組制作に活かしていきたい。

- 1月13日(日)のダーウィンが来た！生きもの新伝説「ナニコレ！？傘に化ける鳥」を見た。番組の中で「外からの光が水中で反射し魚を下から照らすので魚の影ができ、水面の上から水中を見ている鳥が魚を発見しやすい。」ということフリップで説明していたが、屈折や反射の角度が正しいのか単純に疑問に思った。水中に光が入ると「屈折」するし、一般に入射角と反射角は同じ角度ではないのか。イメージとして示すのは良いが、科学番組という側面もあるのではないかと思うので正確に図解したほうがよいのではないか。
- 1月14日(月)の『『蜜蜂と遠雷』若きピアニストたちの18日』(BSプレミアム 後3:00~3:59)を見た。若きピアニストたちがピアノコンクールと向き合う「ひたむきさや真摯(しんし)さ」が出ていて、視聴後はすがすがしい気持ちになった。ピアノ王子と呼ばれた現在19歳の牛田智大さんに密着し、予選から決勝へと勝ち進んでいく様子に、ほかの出場者、浜松の市民との関わりなども織り交ぜて番組は作られていた。牛田さんが途中で敗退するリスクと、その場合の構成はどの様になるのだろうとスリリングな気持ちにもさせられた。恩師であるピアニストの故・中村絃子さんとの思い出、練習風景、過去の映像なども効果的に使用されていて、短い時間でよく作り込まれていた。牛田さんが日本人ではこれまで最高の2位となったこと、今の10代がプロコフィエフやラフマニノフを平気で弾きこなすことにも素直に感心した。

NHK編成局
番組審議会事務局